

(坂巻良一先生)

専門医受験を目指したのは、専修医試験が終わってからすぐでした。そのままの流れで取りたいと考えていました。一度モチベーションが下がると、なかなか腰が重くなるのと、年々厳しくなっていると感じたからです。

準備は、ボーンアンカーブリッジの症例がやはり難関で、後は日々の臨床で経過が良いものを選ぶくらいでした。ただ、実際にセレクトする際には、日々のデータの蓄積が、かなり大事だということを痛感しました。

症例を作るつもりで、日々データを集めておかないと、なかなか20症例を作るのも大変です。

試験に関しては、事前に開催していただいたIIRDの対策講習で、質問の受け答えの仕方、過去の出題傾向やらを教えていただいたので、あまり緊張せずにのぞめました。

実際に試験会場で聞かれた質問内容も、ほとんどが対策講習で突っ込まれたことばかりでしたので、問題なく回答できました。この場を借りて、対策講習に尽力してくださった八木原先生、大塚先生、長山先生、講習に参加してくださった先生方に御礼申し上げます。

資格が治療するわけではありませんが、それでもやはり、インプラント治療を扱う歯科医師として、目指すべき資格かと思います。合格に満足せず、日々の診療に研鑽を重ねていきたいと思っています。